

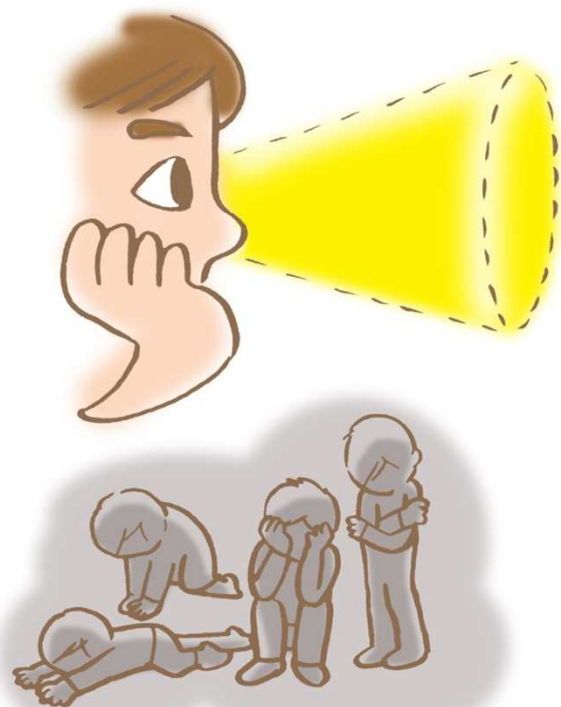


新生計画20周年

今後求めていく5つの教会像
概念簡略説明

1)「谷間」におかれた人々の心を生きる教会へ

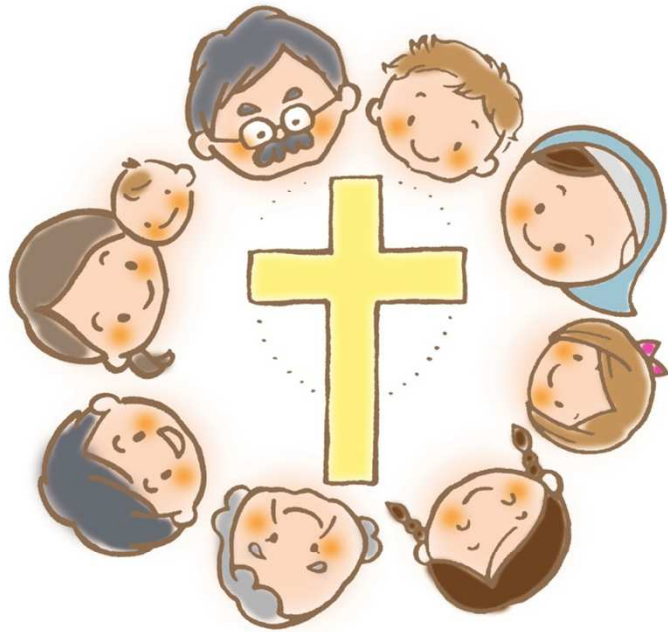
谷間の心



- 人が人として生きていける社会を私たちキリスト者は目指さなければなりません。
- 人として生きるとは、なんでしょうか。選択の自由ではないでしょうか。
- 往々に私達は、自らの自由は声高に要求しますが、他者の自由は踏みにじる事が多く見受けられます。
- そうした基本的人権の適正化する事が「信仰の要請」となります。
- これは国籍・言語・地域・肌の色・地位・情報格差・イデオロギー等(デバイド＝谷間)によって妨げられてはなりません。
- デバイドに苦しむ人々こそイエス、その人なのです。
- その人々と共に生きることから、キリスト者は始まります。

2)「交わり」の教会へ

交わり



- 交わりとは如何なるものでしょう。
- 交わりとは胸襟を開いて、相手を受け入れるところから始まります。
- 年長者が噂話ばかりをして、他者を否定している姿は、年少者には教会が魅力的には映らないでしょ。
- 年長者が前向きで建設的な言動を行ってこそ、年少者へのより良い刺激になるでしょう。
- また、小教区・ブロック共に開かれた教会へ変わっていく事が今日求められている教会の姿です。
- 開かれた教会とは出会いの場・交わりの場・わかちあいの場であり、地域と共に歩む教会です。

3)「共同責任」を担いあい、協働する教会へ

共同責任



- 第2バチカン公会議の中心思想は共同責任です。
- 責任とは使命で、其々に違い、多様性を認め合う事です。
- 使命には基礎があり、基礎は福音を宣べ伝えていく事です。
- 共同責任とは自己を深め、弱い人と共に考え、共に汗を流し、共に笑いあえる社会・教会を作っていく事です。
- キリスト者は観念的ではなく、実際の生き方をとうして証しする事を求められています。
- 私達は多様性の豊かさと多様性の一致をとうして、証しを行っていくのです。

4)聖霊の導きを識別しながら共に歩む教会へ

聖霊の導き



- 神の導きを求めながら歩む生き方がキリスト者の生き方です。
- 決して自分に都合の良い神様像を作る事ではありません。
- 神の呼びかけにこたえ、神に心を閉ざさない、自分の為ではなく今日、弱者の為に語り、行動する人こそ神の心にかなうものです。
- 神の思いに答え、社会で生きていく上で必要になるのは、信仰の更なる深まりが必要です。
- 聖霊の導きを選び取って生きる共同体・個人を目指しましょう。
- 信仰の上にかたく立ち、神の呼びかけに答え、信頼して進む教会・個人。

5) 司祭・修道者との協力を重視しながら、信徒の役割と責任(使命)を前面に出す教会へ

信徒の役割



- キリスト者とはその実生活においてイエスを証しするものの他はありません。
- 個人だけではなく、聖職者、また共同体と共に祈り・行動するものの事です。
- 国・地域・言語・風習・肌の色・イデオロギー・情報格差等による、壁を越えて祈り・行動するものとならなければなりません。
- 思考し、祈れば、おのずと行動が伴います。行動は思考であり、祈りです。
- 小教区と言う社会から離れたオアシスで怠惰に過ごす信徒ではいけません。
- 病み・疲れた、社会弱者の為に、聖職者と共に行動する信徒が社会にイエスを証しするものとなるのです。
- 勇気を掘り起こし、イエスを証しするキリスト者と一人一人が成りましょう。
- 信徒として本来の召命と使命に、今まで以上に生きる皆様となりますように祈ります。